次世代スマートデバイス開発プロジェクト

平成26年度概算要求額　２５．３億円（１５．５億円）

商務情報政策局　情報通信機器課
03-3501-6944
製造産業局　自動車課
03-3501-1690

資料３－１

事業の内容

事業の概要・目的

○本事業では、低炭素かつ安全な将来の自動運転の実現を目指した、高効率な安全走行制御技術の高度化に伴う課題を解決するエレクトロニクス技術の開発を行います。

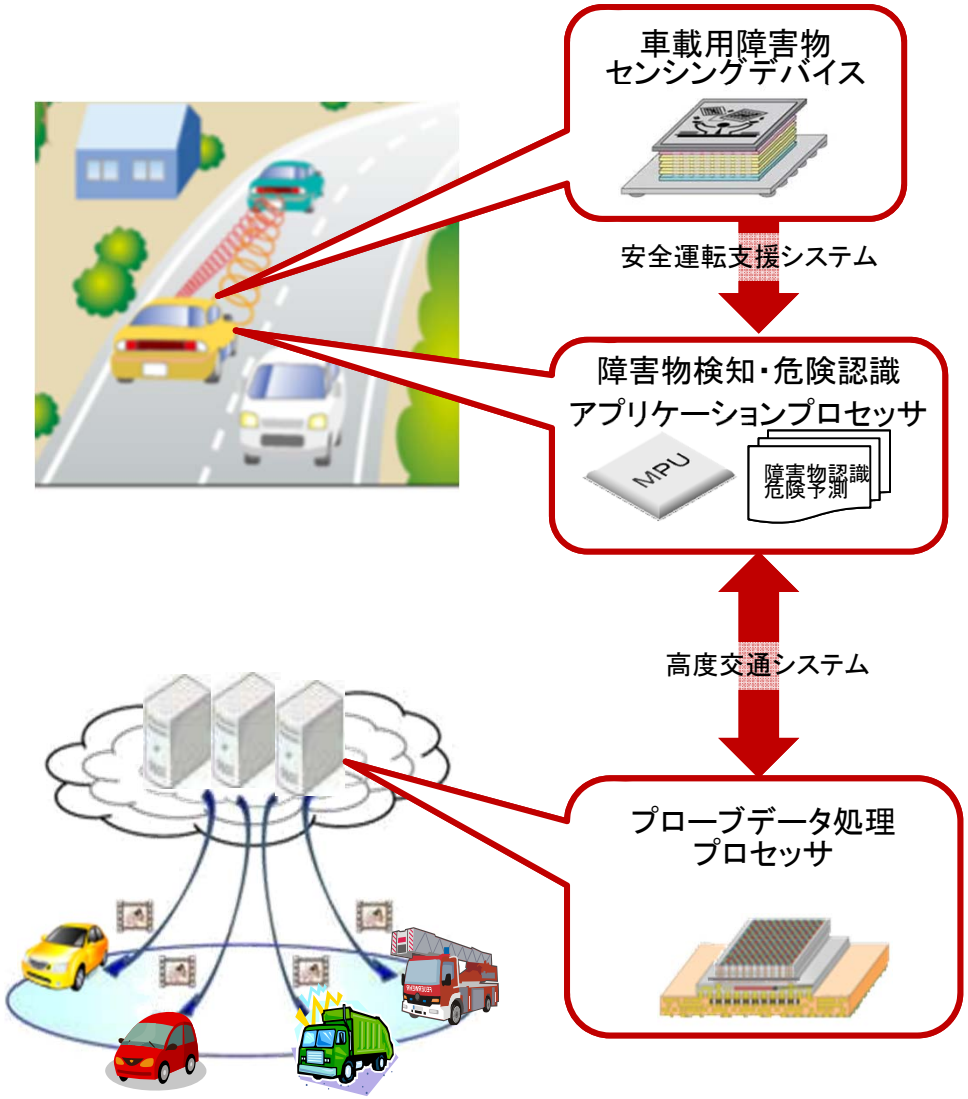
○具体的には、①全天候下で歩行者等の障害物を検知できる車載用障害物センシングデバイス、②各種センサーからのデータを元に障害物の危険度を判断する障害物検知・危険認識アプリケーションプロセッサ、③個々の車からもたらされる周辺情報や車両の診断情報等のプローブ情報を、渋滞予測、事故多発マップ等の目的に応じて分析する、プローブデータ処理プロセッサを開発します。

○これらの技術開発を通じて渋滞解消、交通事故低減に寄与し、低炭素かつ安全な利便性の高い車社会基盤を整備します。併せて、我が国の次世代自動車に関係するエレクトロニクス企業の競争力強化に貢献します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）

国 → 交付金 → NEDO → 委託 補助(1/2) → 民間企業等

事業イメージ



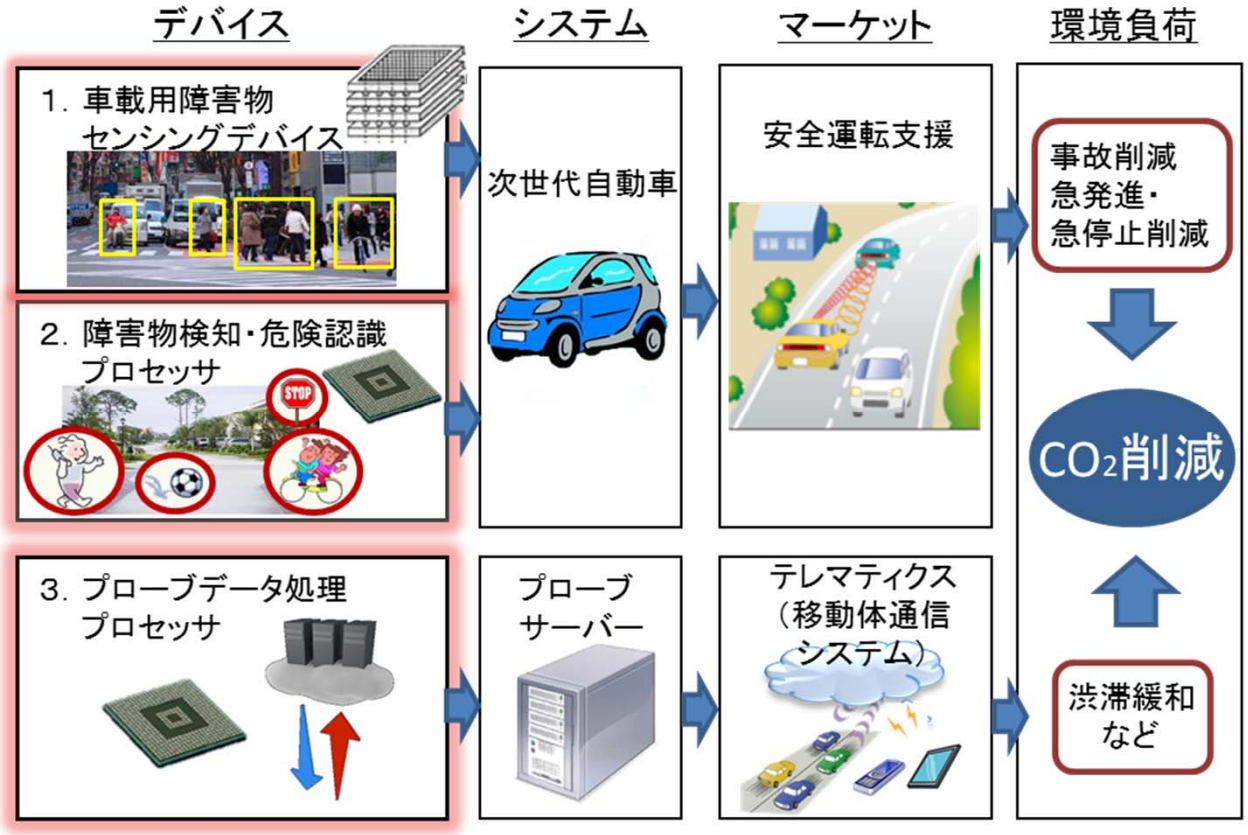
次世代スマートデバイス開発プロジェクト

出口戦略

○成果活用段階における活用主体又は候補

研究開発実施民間企業等

○成果の実用化の姿

本事業の研究開発実施民間企業等が、事業終了後、コスト等を考慮しつつ当面のターゲットを明確にして、本事業の成果を用いたビジネスを開始し、実績を積み上げることで更なる用途展開を図る。その際、自動車メーカー及び部品供給企業の共同開発によりデファクトスタンダードを獲ることで、競争優位を構築する。

2030年には、本事業で開発する製品が次世代自動車に搭載されるなどして、エコドライブを実現する。